

## I. 平成 20 年度活動概要

平成 19 年度に、従来の独立修士課程環境科学研究科（1977 年度設置）は、博士課程生命環境科学研究科の前期課程環境科学専攻に移行されると同時に、後期課程持続環境学専攻が新設されました。したがって、今年度は、生命環境科学研究科環境科学専攻の第 1 期生を修士修了生として送り出しました。

環境科学専攻（環境科学研究科の生命環境科学研究科への移行組織）の目的は、人間生存の基盤である環境にかかわる諸課題に、高度の学問水準をもって有効適切に対処しうる人材を、文理融合型の学際基礎教育によって養成することにあります。循環環境学と環境共生学の 2 領域に幅広く重点化しつつ学生の個性を重視した個別研究を熟成させるカリキュラムによって、グローバル＝ローカル（グローカル）な視点をもって環境系課題に柔軟に対応できる高度職業人や研究者の学際基礎の教育をおこないます。一般入試や連携大学院方式のみならず、留学生や社会人を対象とした特別選抜や、留学生と日本人学生を対象として英語で授業を行う国際連携環境プログラム（ICEP）を実施し、環境系課題に関心を持ち、環境分野の専門家として活躍する意欲をもつ人材を受け入れています。本年度は JICA（国際協力機構）の JDS（留学生支援無償事業）と連携して 5 名の留学生を受け入れました。

持続環境学専攻は、「地球レベルと地域レベルの人間環境の連環的相互作用の動態とそこにひそむ持続可能性のメカニズムを解明して持続可能な環境を体系化する」教育研究の拠点です。持続環境学は、フィールド・サイエンスの実践知と文理融合知を幅広く学際深化し、その高度化によって、持続可能で良好な生活質と安全・安心をそなえた地域環境を実現し、究極的には地球環境の制御的安定を目指すものです。

本専攻では、持続可能性の観点から環境課題を持続環境学として重点化し、個別研究の高度な研究指導と学際深化を行なう拠点として「持続循環環境学」、「持続環境共生学」、「人間環境持続創成学領域」の 3 領域を設定して、学究型研究者と実務型研究者を養成します。こうして、国際社会や地域社会の中で持続環境を実現できる有能な人材を養成します。

両専攻ともに、一般入試や連携大学院方式のみならず、留学生や社会人を対象とした特別選抜も実施して、環境系課題の問題発見とその解決に意欲をもつ人材を受け入れて、育成しています。両専攻ともに、学外出身者が 8 割以上を占めています。

連携大学院方式では、環境科学専攻（定員 2 名）で 2 名（前年度 1 名）を受入れ、1 名（前年度 5 名）が修了しました。

実践実習は、環境科学専攻の 3 名が国内 4 機関で、また持続環境学専攻の 3 名が国内 3 機関でそれぞれ実習しました。この傾向は平成 19 年度の 6 名 6 機関とほぼ同じです。また、海外インターンシップは、環境科学専攻でインドネシアに 5 名、中国に 3 名、また持続環境学専攻でインドネシアに 1 名、中国に 4 名、モンゴルに 1 名が渡航しそれぞれ実習しました。

外国人留学生枠として、環境科学専攻（定員 10 名）は 12 名、また持続環境学専攻（定員 2 名）は 3 名をそれぞれ受け入れました。社会人特別選抜枠として、前者（定員 10 名）は 10 名、また後者（定員 2 名）は 2 名をそれぞれ受け入れました。

入学試験は 10 月期と 2 月期に実施したほかに、ICEP（国際連携環境プログラム）に準拠して、同第 2 期選抜試験を中国高水準大学公派計画に対応して 2 月に、また同第 3 期選抜試験を JDS 関連に対応して 3 月にそれぞれ実施して、国際連携にもとづく留学生を積極的に受け入れました。

平成 21 年度入試（平成 20 年度実施）に関しては、環境科学専攻（定員 84 名）では志願者数が 111 名（前年度 114 名）で入学者が 94 名（前年度 96 名）であり、持続環境学専攻（定員 12 名）では志願者数が 12 名（前年度 37 名）で入学者数が 11 名（前年度 33 名）でした。環境科学専攻では昨年度とほぼ同数の志願者があったのに対し、持続環境学専攻では激減して入学者もほぼ定員と同数となり、今後の推移を見守る必要がある。

特に、社会人特別選抜の志願者が環境科学専攻では10名（前年度1名）、また持続環境学専攻では2名（前年度8名）で、それぞれ昨年度とは対照的な変動が見られた。

なお、主な年間行事は以下のように行われました。

- 4月 環境科学専攻と持続環境学専攻： 入学、新入生・在学生ガイダンス
- 5月 環境科学専攻と持続環境学専攻： 修了予定者（環境科学研究科）の研究計画書提出
- 6月 環境科学専攻と持続環境学専攻： 環境系専攻案内、要覧、年報の発行、
  - ・1年次生指導教員決定（環境科学専攻）
- 10月 環境科学専攻と持続環境学専攻： 10月期入学試験（一般、社会人および外国人留学生）、
  - ・修士論文分野別中間発表（環境科学研究科）
- 1月 環境科学専攻： 修士論文提出（環境科学研究科）  
持続環境学専攻： 博士論文審査手順の公表
- 2月 環境科学専攻： 修士論文公開審査、修士論文の可否判定（環境科学研究科）  
環境科学専攻と持続環境学専攻： 2月期入学試験、ICEP第2期入学試験
- 3月 環境科学専攻： 修了式と学位授与（環境科学研究科）  
環境科学専攻と持続環境学専攻： ICEP第3期入学試験

## 1. 学事(平成20年度)

環境科学専攻；

### (1) 入学等

4月入学者：78名（うち外国人留学生16名、社会人2名）

8月入学者：0名

研究生受入数：1名

内訳：

日本人研究生1名、国費外国人留学生0名、私費外国人留学生0名、特別研究学生0名

科目等履修生：0名（日本人0名）

### (2) 修了および退学

7月修了者 0名

3月修了者 84名

退学者 7名

除籍者 0名

### (3) 平成21年度入学試験と入学者

10月期入試：志願者 99名、受験者 96名、合格者 89名（外国人留学生 11名）

2月期入試：志願者 12名、受験者 11名、合格者 10名（外国人留学生 3名）

ICEP第1期(2月)入試：志願者 1名、受験者 1名、合格者 1名（外国人留学生 1名）

ICEP第2期(3月)入試：志願者 5名、受験者 5名、合格者 5名（外国人留学生 5名）

合計； 志願者114名、受験者111名、合格者103名（うち外国人留学生 18名）

平成20年度の入学生（2学期入学予定者も含む）96名

持続環境学専攻；

### (1) 入学等

4月入学者: 35名(うち外国人留学生17名、社会人1名)

8月入学者: 0名

研究生受入数: 1名

科目等履修生: 0名

(2) 修了者

2名

(3) 平成20年度入学試験と入学者

10月期入試: 志願者 9名、受験者 9名、合格者 9名(外国人留学生 2名)

2月期入試: 志願者 3名、受験者 3名、合格者 3名(外国人留学生 2名)

ICEP第1期(2月)入試: 志願者 4名、受験者 4名、合格者 4名(外国人留学生 4名)

ICEP第2期(3月)入試: 志願者 0名

合計: 志願者 42名、受験者 41名、合格者 38名(うち外国人留学生 18名)

平成21年度の入学生(2学期入学予定者も含む) 37名

## 2. 研究科の編成(括弧内は所属専攻略称)

### (1) 教員会議構成員(修士課程委員会承認)71名

#### 教授

石井哲郎 (社医)	内山裕夫 (持続)	大澤義明 (社シ)	大原利真 (連携)
大村謙二郎 (社シ)	小場瀬令二 (社シ)	恩田裕一 (生共)	金保安則 (社医)
木村富士男 (地環)	熊谷嘉人 (社医)	小林勝一郎 (持続)	佐藤 忍 (生共)
佐藤 俊 (持続)	佐藤政良 (生圏)	白岩義博 (情生)	杉浦則夫 (生産)
杉田倫明 (地環)	高野裕久 (連携)	田瀬則雄 (持続)	田中 博 (地環)
土居修一 (国地)	土屋尚之 (社医)	張 振亜 (持続)	中村 徹 (国地)
沼田 治 (構生)	野原恵子 (連携)	濱 健夫 (持続)	林 陽生 (持続)
東 照雄 (生圏)	氷鮑揚四郎 (持続)	福島武彦 (生共)	藤川昌樹 (社シ)
増田美砂 (持続)	松崎一葉 (社医)	松本 宏 (生機)	宮本邦明 (持続)
吉野邦彦 (社シ)	渡邊和男 (構生)	渡邊 信 (構生)	渡辺 守 (持続)

以上40名

#### 准教授

浅沼 順 (地環)	足立泰久 (持続)	伊藤太一 (持続)	井上健一郎 (連携)
植田宏昭 (持続)	上野健一 (地環)	風間計博 (歴人)	梶山幹夫 (国地)
上條隆志 (国地)	佐藤親次 (社医)	菅田誠治 (連携)	田村憲司 (生圏)
辻村真貴 (持続)	中谷清治 (化学)	奈佐原顕朗 (持続)	野村暢彦 (持続)
野本信也 (化学)	廣田 充 (持続)	山路恵子 (持続)	吉田謙太郎 (社シ)
渡辺 俊 (社シ)	以上21名		

#### 講師

青木優和 (構生)	島田秋彦 (持続)	角 大悟 (社医)	日下博幸 (地環)
藤井さやか (社シ)	松下文経 (生共)	村上暁信 (社シ)	藤 栄治 (社医)

以上8名

## 助教

松井健一 (持続) 戸崎裕貴 (持続)

以上2名

## (2) 研究指導担当教員 54名

浅沼 順	足立泰久	石井哲郎	伊藤太一	上野健一	内山裕夫
大澤義明	大原利眞	大村謙二郎	小場瀬令二	恩田裕一	風間計博
梶山幹夫	金保安則	木村富士男	熊谷嘉人	小林勝一郎	佐藤 忍
佐藤 俊	佐藤親次	佐藤政良	白岩義博	杉浦則夫	杉田倫明
高野裕久	田瀬則雄	田中 博	田中正秀	田村憲司	辻村真貴
張 振亜	土居修一	中谷清治	中村 徹	沼田 治	野原恵子
野村暢彦	野本信也	濱 健夫	林 陽生	東 照雄	氷鮑揚四郎
福島武彦	藤川昌樹	増田美砂	松崎一葉	松本 宏	宮本邦明
吉田謙太郎	吉野邦彦	渡邊和男	渡辺 俊	渡邊 信	渡辺 守

## (3) 授業担当教員(研究指導担当教員および非常勤講師を除く) 13名

### 教員会議構成員

青木優和	井上健一郎	菅田誠治	植田宏昭	上條隆志	島田秋彦
角 大悟	奈佐原顕郎	藤井さやか	松井健一	松下文経	山路恵子
蕨 栄治					

## (4) 非常勤講師

小山内信智	(国土交通省国土技術政策総合研究所危機管理技術センター防災研究室長)	環境リスク論
泉福英信	(国際感染研究所細菌第一部第6室室長)	環境リスク論
庄子真憲	(環境省中部地方環境事務所総務課総務課長)	環境政策論
竹本明生	(環境省地球環境局環境保全対策課課長補佐)	環境政策論
土居健太郎	(環境省総合環境政策局環境影響評価課課長補佐)	環境政策論
藤井敏信	(東洋大学国際地域学部長)	環境科学特論Ⅲ
藤井敏信	(東洋大学国際地域学部長)	環境科学特論Ⅳ
水谷知生	(環境省自然環境局野外生物課外来生物対策室長)	環境政策論
森下 哲	(環境省環境保健部環境リスク評価室長)	環境政策論
鞠子 茂	(法政大学社会学部教授)	陸域生態学
柳 憲一郎	(明治大学法科大学院法務研究科教授)	環境法論
柳 憲一郎	(明治大学法科大学院法務研究科教授)	環境科学特論Ⅴ

## (5) 職員

準研究員	: 李 盛源	小山雄資
技術職員	: 腰塚昭温	竹川雅実
事務職員	: 吉田路子	秋葉美代江
事務補佐員	: 大山恵子	

### 3. 役割分担

全学的委員等(○印は委員長)

持続環境学専攻長(研究課長、環境科学専攻長を兼務)

佐藤 俊

修士課程委員会

佐藤 俊、濱 健夫

下田臨海実験センター運営委員会委員(修士枠)

宮本邦明

公開講座委員(修士枠)

小林勝一郎

教員会議第5条に基づき研究課長が指名する教員

内山裕夫

生環研入試実施委員会委員

○濱 健夫、内山裕夫、佐藤 俊

論文審査委員会(修士課程)

○佐藤 俊、内山裕夫、濱 健夫、宮本邦明、  
辻村真貴、吉田謙太郎、渡辺 守、野村暢彦、  
吉野邦彦、伊藤太一

就職委員

吉田謙太郎、佐藤 俊

図書館運営委員会委員(修士課程推薦)

渡辺 守

留学生センター運営委員

佐藤 俊

生命環境科学研究科内委員

人事委員会委員 佐藤 俊

運営委員会 佐藤 俊

教務委員会 林 陽生

環境科学研究科内委員(○印は委員長)

人事等検討委員会

○佐藤 俊ほか 教授36名

環境系専攻運営委員会

○佐藤 俊、田瀬則雄、林 陽生、濱 健夫、渡辺 守、内山裕夫、  
小林勝一郎、氷鮑揚四郎、宮本邦明、増田美砂、熊谷嘉人、  
小場瀬令二、野本信也、菅田誠治

カリキュラム委員会

○林 陽生、島田秋彦、張 振亜、渡辺 守、吉野邦彦、宮本邦明

予算委員会

○増田美砂、伊藤太一、足立泰久、奈佐原顕朗

広報・IT委員会

○野村暢彦、奈佐原顕朗、山路恵子、角 大悟、佐藤 俊

就職委員会

氷鮑揚四郎

各部屋利用WG

○氷鮑揚四郎、林 陽生、小林勝一郎、濱 健夫

外部資金企画委員会

○内山裕夫、張振亜、熊谷嘉人、林陽生、増田美砂、張 振亜、伊藤太一、  
佐藤 俊

実習委員会

○辻村真貴、角 大悟、吉野邦彦

入学試験委員

○濱 健夫、内山裕夫、佐藤 俊

国際連携環境プログラム委員会

○氷鮑揚四郎、野村暢彦、張 振亜、吉田謙太郎、増田美砂、吉野邦彦、  
佐藤 俊

安全管理委員会

○小林勝一郎、島田秋彦、奈佐原顕朗

学生相談推進室

○渡辺 守、山路恵子、張 振亜、増田美砂

インターンシップ委員会

○氷鮑揚四郎、増田美砂

### 4. 人事異動

## 着任

平成21年 2月1日 廣田 充 准教授  
平成20年12月1日 戸崎裕貴 助教

## 退職

平成21年3月31日 吉田健太郎 准教授  
(転出先:長崎大学 教授)  
平成21年3月31日 角 大悟 准教授  
(転出先:徳嶋文理大学 薬学部)  
鞠子 茂 准教授  
(転出先:法政大学社会学部教授)  
吉田友彦 講師  
(転出先:立命館大学政策科学部准教授)

定年退職 なし

## 5. 概算要求

本年度は、修士課程環境科学研究科の生命環境科学研究科への統合改組が実施され、旧環境科学研究科が博士前期課程環境科学専攻に移行し、同時に博士後期課程持続環境学専攻が新設されました。この改組の実績と問題点を見るために、平成20年度の概算要求は差し控えました。

## 6. その他の活動

### (1) 広報活動

- 1) 環境科学研究科年報(通巻30号)をpdf版で発行した。また改訂した研究科要覧(パンフレット)・研究科ポスターを関係各方面に配布した。
- 2) 社会に開かれた大学・大学院展(東京)で要覧の配布およびポスターの展示を行った。
- 3) インターネットの環境科学研究科ホームページの内容の充実を図った。
- 4) 平成20年度10月期と2月期の入試に向けて研究科説明会を開催した。

### (2) キャリアアップ支援

キャリア支援室より予算の配分があり、M1学生の就職活動のためのキャリアアップ支援を目的に、環境科学研究科修了生を講師に招き、「キャリアアップ支援後援会」を実施した。講師自身の就職活動およびその後の職場や社会での経験談を語っていただき、研究科学生の今後の学習、あるいは研究計画および就職活動等の進路の参考とさせた。

#### 1) 実施状況

- ① 企画名: 環境科学研究科キャリアアップ支援講演会
- ② 対象者: 環境科学専攻学生及び生命環境科学研究科学生
- ③ 実施日時: 平成20年 10月 8日 13:00~17:00
- ④ 参加者: 45名
- ⑤ 講師名: 計4名

- ⑥ 内容：環境科学研究科修了生6名を講師に招き、2回に分けて講演会を開催した。講師自身の就職活動や職場での体験談及び会社説明等を、パワーポイントを使用し、わかりやすく説明して頂いた。その後、質疑応答やディスカッションが行われた。

## 2) 成果・課題

- ① 成果：参加者はトータル45名で、多面的な角度から就職活動の経験談、現在の職務内容と環境科学との係りなどについて、現場からの報告があり、内容も豊富で充実しており、ずいぶん得られるところがあった。特に、社会や企業が求める人材についても、在学生と幅広く意見交換され、今後の就職活動において得られるものが多かった。
- ② 今後の課題：予算示達後、教員への講師推薦依頼、講師出張依頼および同日程調整まで順調に手続きが進み、学生への周知時間も十分取れた。しかし、当日間際になって講師の都合がつかなくなり、再度講師依頼等の手続きを行った。参加者数は45名と例年より多く意義ある講演会となった。